

令和7年度 立川市立幸小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	◎自分で考え行う子ども ◎なかよく力を合わせる子ども	○粘り強くやりぬく子ども ○心と体をきたえる子ども
---------	-------------------------------	------------------------------

児童の育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取り組み
①自分に合った課題を設定し、解決していく力（個別最適な学び） ②考えを伝え合いながら学びを深める力（協働的な学び） ③楽しみながら学びに向かう力	・一人一人が自分に合った課題意識や学習方法を選択（個別最適な学び）し、個の学びやグループ・ペアによる学び合い学習（協働的な学び）を取り入れ、学びの充実を図る。 ・個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて、学習内容や学習状況に応じて電子黒板やICT機器を効果的に活用し、学びに向かう力の向上につなげる。 ・一単位時間のまとめの段階では、自己評価の内容・方法を工夫し、自分自身を振り返り、次の学習につなげていくとともに、自分のよさを自覚し生活の中で発揮できるよう価値付けていく。

教科	教科で育成を目指す資質・能力 （学習指導要領より）	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）		
		低学年	中学年	高学年
国語	○日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ○日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	・既習事項や生活経験、担任からの提案を基に、自分で課題を考えられるような活動を設定する。(①) ・クラス全体だけでなく、ペア・グループ学習など小集団で伝え合う場合も設定し、自分の意見をもち、またそれを伝えることができるようになる。(②) ・ハンドサインにより、自分と友達の違いを比較し表現できるようにする。(②) ・自分の思いと比べて体験と関係付けたりしながら文章を読んだり、考えたことを表現できるようにする。(②) ・学習したことを実生活で活用したり、既習事項と関連して考えたりできるような発問・まとめをする。(③)	・物語や説明文の読み取りの場面では、心情を読み取る際に根拠となる文章を発言できるようにする。(①) ・友達と考えを共有する時間を取り、伝え合いながら自分の考えと比較できるようにする。(②) ・自分の考えと友達のを共有するペア・グループ活動を取り入れ、お互いの考えを比較したり、自分の学習に関連付けたりする場を設定する。(①②) ・児童の意見を取り入れながら学習のまとめを行うようにする。(③)	・説明的な文章でも文学的な文章でも自分の考えを書く時間を十分に確保する。(①) ・自分の意見や考えを言ったり書いたりするときに、叙述を根拠にして、その考えの理由を明記させるようにする。(②) ・文学的な文章では、登場人物や場面を対比して読みを深める活動を設定する。(③)
社会	○地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。		・身近な地域や市の様子を見学・調査し、資料等で情報を集めて調べたことをまとめる活動を設定する。(①) ・資料をもとに、課題意識をもたせ、学習問題を作れるようにする。(③) ・地図や資料を根拠として、考えを伝え合うことができるようにする。(②) ・学習のまとめとして「キャッチフレーズ」をつくる活動を設定することで、これまでの学びを根拠に、単元の内容における今後の課題について統合的・発展的に考えを表現する力を育成する。(③)	・自分の生活と結び付けて考えさせることで興味関心を引き出す。(③) ・複数の資料を提示し、比較・関連付ける活動を設定する。(①) ・資料を根拠として、社会の移り変わりについて自分の考えを表現する活動を設定する。(②)
算数	○数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。 ○日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。	・既習事項や生活経験をもとにして、単元について自分なりに課題をもつことができるよう、発問を工夫する。(①) ・既習事項やこれまでの児童の振り返りを教師が意識して授業展開をすることにより、児童が根拠をもって思考したり、統合的・発展的な考えに気付いたりできるようにする。(②) ・規則性を見付けやすくなるように資料等を提示して、比較・関連付ける活動を設定する。(②) ・生活の中で課題を見付けたり、学習をしたことを生活に生かさせたりするような発問・まとめをする。(③) ・考えたことをペアで伝え合う時間や友達のを復唱したり続きを予想したりする活動を設定する。(②)	・既習事項や生活経験を基盤とし、日常生活に即した問題場を提示することで、児童自ら課題を見出し、解決への意欲をもてるような発問を工夫する。(①③) ・児童が規則性に気付きやすくなるよう、資料の提示や板書の工夫を通して比較・関連付けの場を設定し、根拠をもって思考する力や、統合的・発展的な見方・考え方を育む授業を展開する。(②) ・児童が自らの学びを振り返り、学習の過程で得た気付きや考えを言語化する場を設けることで、理解の深化と次時への見通しをもたせるまとめの工夫を行う(②)	・学習のめあてや活動のゴールを自ら選択できるような授業を展開し、既習事項を基に考え解決させるようにする。(①) ・生活場面や児童にとって身近な場を提示する。(③) ・ICT 機器を活用して、友達と互いに考えを解釈し、共有する活動を設定する。(①②)
理科	○自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ○観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。		・実物や動画、写真などから課題をもち、予想を立てることができるようにする。(③) ・生活体験等、土台となる体験を、実験の結果を予想するための根拠となるようにする。(①) ・予想や仮説を立てる時間を多く確保し、既習の内容や生活経験を結び付けて考える力を育成する。(①) ・実験・観察の結果について、比較・関連付ける場を取り入れる。(①②)	・予想や仮説を立てる時間や観察、実験において、その方法を自分たちで考える時間を十分に設定する。(②) (③) ・実験・観察において、その結果について、比較・関連付ける活動を設定する。(②) ・自然の事物・現象に対して、実験・観察を活用し、多面的に調べ、より妥当な考えをつくり出したり、新たな仮説を立てたりすることができるようにする。(①)
生活	○活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等への気付き及び、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 ○身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現する力。	・生活経験や、学習活動を振り返ること、課題意識（問い）が生まれるよう単元計画を設定する。(①) ・資料や見学したことをもとに、自分の考えを伝えられるようにする。(②) ・地域の人的・物的資源を活用することで、学習意欲を高めるとともに、既習事項を基にして地域に関わっていかうと意欲をもつようにする。(③)		
音楽	○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ○音楽表現を工夫することや、音楽を味わって関心・意欲を高める。	・音楽を聴いて、気付いたことや感じたことについて、根拠をもって話す場を設定したり、お互いの考えを共有する活動を設定したりする。(①、②) ・体を動かしながら拍感や曲想をつかまえることで学習意欲を高める。(③)	・音楽を聴いて、気付いたことや感じたことについて音楽的な要素と関わりながら根拠をもって伝えられるようにする。(②) ・拡大楽譜や図形楽譜を使って音楽を可視化したり、音楽の特徴をつかむために体を動かす活動を取り入れたりして学習意欲を高める。(③) ・器楽や音楽づくりでは、個々の課題に合わせて ICT を活用（お手本音源の使用・視聴速度の調整）したり、自分たちの音楽表現や考えを共有したりするようにする。(①、②)	・音楽を聴いて、気付いたことや感じたことについて音楽的な要素と関わりながら根拠をもって伝えられるようにする。(②) ・拡大楽譜や図形楽譜を使って音楽を可視化したり、音楽の特徴をつかむために体を動かす活動を取り入れたりして学習意欲を高める。(③) ・器楽や音楽づくりでは、個々の課題に合わせて ICT を活用（お手本音源の使用・視聴速度の調整）したり、自分たちの音楽表現や考えを共有したりするようにする。(①、②)
図画工作	○対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりする力。 ○造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をする態度。	・身近なものに触れ、心地よさを感じたり、材料に興味をもたせたりすることで、学習意欲を高める。(③) ・お互いの作品を鑑賞して作品のよさを具体的に伝えさせることで、根拠をもって表現できるようにする。(②) ・自分が表したい作品に合った、材料や用具の使い方を選べるような活動を設定する。(①)	・身近な作品のよさや友達の表現の面白さに触れたり、材料のもつ形や色や心地良さを十分に味わったりすることで学びに向かう意欲を高める。(①③) ・お互いの作品のよさや面白さを伝え合う鑑賞活動の機会を充実させる。(②) ・自分の表したい、思いや願いに合った資料の収集のためにタブレット端末を適切に活用できるようにする。(②)	・材料に触れ合ったり、用具に慣れたりする時間を大切に、色や形の組み合わせ、手触りの感じを捉え、自分の表したいイメージと関連付けられるようにする。(①③) ・鑑賞では、表現方法が違う作品を複数提示し、児童が比較関連付けながら作品の造形的なよさ、美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深められるようにする。(①②)
家庭	○家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解や技能。 ○日常生活の中から問題を見だし課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。			・自分の生活経験の中で使える場面を考えながら学習に取り組ませ、学んだことを実践する活動を設定する。(①③) ・自分の生活経験などから考えたことを表現し、交流する活動を設定する。(②)
体育	○その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。 ○運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断する力、他者に伝える力を養う。	・課題や場を複数設定し、自分で課題を選択できるようにする。(①) ・良い動きや楽しい動きを共有する活動を設定する。(①) ・友達の動きのよさを見付けて伝える活動を設定する。(②) ・単元の終末に、学習の成果を生かして楽しむ活動を設定して、学習意欲を高める。(③)	・友達同士で運動の様子を見合い、自己の動きに生かしたり、気付いたことを友達に伝えたりできるようにする。(①②) ・授業の終わりに学習カードに自分や友達のよさについて気付いたことを振り返る時間をとることで、次時の改善に生かせるようにする。(①) ・児童の興味が高まるよう導入を工夫し、児童の意見を取り入れながら学習を進めていく。(③)	・個人差に応じた場を設定し、課題を解決するための場を自分たちで選べるようにする。(①) ・自分の動きと友達の動きを比較し、自分の動きをよりよくするための練習やポイントを考えたアドバイスし合ったりする活動を設定する。(②) ・振り返りをする時間を確保し、自己の伸びを捉え、今後の課題を設定できるようにする。(③)
外国語活動	○外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを円滑化する資質・能力を育成する。		・ALT の発音や CD の音声を聞いて、外国語と日本語の違いを比較しながら話せるようにする。(③) ・授業の終わりに学習カードに自分や友達のよさについて気付いたことを振り返る時間ととり、外国語への理解を深める。(①) ・ALT の英語から何を話しているかを考える場面を意図的に取り入れることで、外国語の発音やコミュニケーションに慣れ親しむようにする。(①②) ・日本語の単語の言い方と、外国語の単語の言い方を比べる発問を取り入れ、日本語と外国語との音声の違い等に着目する力を育成する。(①③)	
外国語	○外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを円滑化する資質・能力を育成する。			・学んだことを生かしてコミュニケーションをする活動を設定し、英語で表現したり、お互いに発音を聞き合ったりすることができるようにする。(②) ・日本と外国との文化の違いについて比較することで、考えを深める活動を設定する。(①) ・ALT の英語から何を話しているかを考える問いを意図的に投げかけることで、外国語の発音やコミュニケーションに慣れ親しむことができるようにする。(②) ・学習した英語を自分の生活に生かせる場面を想定させながら、外国語で伝えたいという思いを高められるようにする。(③)